

捨てないで
迷子にしないで



はじめに・42万頭の叫び



近年、都市化や少子高齢化が進む中で、家庭動物を飼うことが人の心身によい効果を及ぼしたり、生活の潤いになるなど、その重要性が注目されています。家庭動物はもはや単なるペットではなく、大切な家族の一員として考えられるようになってきました。しかし、その一方で、全国の自治体に收容された犬やネコの数、毎年約42万頭にもなります。

收容された理由

飼えなくなった、捨てられていた、生まれただもらい手が見つからなかった、路上をうろついていた、路上などで病気やケガで動けなくなっていた・・・自治体の窓口に連れてこられる犬やネコの理由は様々です。一部は飼い主に返還されたり、新しい飼い主に譲渡されますが、その数はごくわずかであり、ほとんどは飼う人がいないために殺処分となっているのが現実です。



殺処分される犬たち・・・約16万頭

殺処分される犬の半数以上は、路上などを徘徊しているところを保護（抑留）された成犬です。その多くは首輪をつけていますが、鑑札や迷子札など身元を示すものがないために、保護施設から飼い主に連絡がとれず、飼い主からの連絡もないために、やむなく殺処分となってしまっています。また、地域によっては、飼い犬が産んだもらい手のつかない子犬や、捨てられた子犬も依然多い状況にあります。





殺処分されるネコたち・・・約 24万頭

殺処分されるネコのほとんどは子ネコです。ネコは交尾すればほぼ 100%妊娠し、年 2～3回出産できるので、繁殖制限措置をしないと、爆発的に増えてしまいます。これらの子ネコに、新しい飼い主が見つかる可能性は極めて低く、ほとんどが殺処分となっています。また、ネコは屋内飼育がすすめられています。放し飼いのネコについては、交通事故などでケガを負ったり、感染症などの病気にかかり衰弱して動けなくなっているものを保護することが多いのも特徴です。これら負傷して収容されたネコは毎年1万頭近くに上りますが、身元を示すものをつけていなかったり飼い主からの連絡がないために、飼い主の元に戻るものは約1%にすぎません。



殺処分を減らすために——飼い主ができること——

収容された 42万頭の犬やネコも、元をたどれば飼い主がいたはず。ところが、迷子にさせてしまったり、いなくなっても捜さなかったり、子犬や子ネコを無計画に生ませてしまったり、捨てたり・・・飼い主の身勝手が多く命を奪っていることとなります。

飼い始める前に彼らと幸せに暮らせるかを熟考し、目の前の命を慈しみ、そして、大切に最期まで飼うという、飼い主としてあたりまえの責任を果たすことで、42万頭という数は確実に減らせるのです。

- 安易に飼い始めない
- 捨てない
- 鑑札や迷子札など身元を示すものをつける
- 迷子にさせない
- いなくなったらすぐに探す
- 不妊去勢措置をする（無計画に繁殖させない）

